

地域密着型サービス評価の自己評価票

有限会社ころ

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族だもん、怒ったり、泣いたり、笑ったり、いいんじゃない」を理念とし、家庭的な環境と地域住民との交流の元、利用者それぞれが自分の個性を出しつつ、心理的に安定した生活を過ごせるよう努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間での勉強会や申し送り時に運営理念の再確認を行い、利用者すべてが理念の下、快適で安心できる生活が送れるよう支援している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は玄関先、ホール内に書面として掲げているにとどまっている。利用者の家族等には理念も浸透してきていると思うが、地域の人々への浸透は運営推進会議等で働きかけているとはいえ、まだまだ広まっていないのが現状である。	○ 定期的に広報誌を作成し、地元住民等へ配布して広めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外気浴の際、顔をあわせたり、庭より顔が見えた時には、こちらから挨拶し、交流を図っている。また、近所で野菜を栽培している方から時々、野菜を譲っていただいたり、買ったりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元小学校の運動会に招待されたり、中学校からの職場体験に学生を受け入れたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	意識している職員もいると思うが、具体的な話し合いには至っていない。	○	運営推進会議等で少しずつ働きかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員にも伝える機会を作っている。	○	自己評価などは職員全員で取り組めるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で意見を求めているが、なかなか具体的な意見は出てこない。	○	なかなか具体的な意見は出てこないが、あれば可能な限り取り入れるよう努力していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の状況報告等を行いながら、意見交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要があれば話し合いたいと思うが、今のところ学ぶ機会を設けていない。	○	必要があれば、機会を設けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で具体的な研修の機会を設けていないが、社会福祉協議会等が主催する関係法令に関する研修の機会があったら働きかけたい。 ホーム内では常に注意を払い、防止に努めている。	○	ホーム内でも学ぶ機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には条項を十分に読み上げ、不明な点がないか確認し納得していただくようになっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お世話になっているとの意識があるからか、訴えが少ない。	○ 職員から積極的に声掛けし、意見を言いやすい雰囲気(信頼関係)づくりをしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	個々に合わせた報告を家族の来所時、または電話等にて報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お世話になっているとの意識があるからか、訴えが少ない。	○ 職員から積極的に声掛けし、意見を言いやすい雰囲気(信頼関係)づくりをしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は職員の意見を聞くよう常に心掛けている。	○ 可能な意見は取り入れるよう心掛けていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員間で勤務の交代が出来るよう調整したり、必要時には経営者側の人間が現場のフォローに入れるような準備は行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりがあった場合、新しく入った職員には特に積極的に利用者へ声掛けし、早く利用者に受け入れてもらえる(覚えてもらう)よう努力している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、出来る限り参加するようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一地域の同業者との連携が重要と感じ、交流する機会を作り質の向上を目指している。また相互訪問の機会がある際には積極的に受け入れ及び、派遣をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者が現場の手伝いに入ったり、良好な職員間の人間関係が構築されるよう明るい雰囲気作りをするよう努力している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	何か問題が発生した場合など、運営者(管理者)がその都度、的確な助言や対応に対する評価をする事により、各職員がくさらず、教訓として活かせるような雰囲気作りをしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際に、管理者とケアマネとで相手の話を聞き、十分な話しあいを行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際に、管理者とケアマネとで相手の話を聞き、十分な話しあいを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、管理者とケアマネとで、十分な話しあいを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な方には見学に来ていただき、実際の様子や雰囲気を感じてもらおう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の際の下ごしらえや、テーブル拭き、お茶入れ、掃除などを手伝っていただいたり、レクリエーションを楽しみながら、そこでお互いが笑ったり、泣いたり感情表現を出せるような工夫を行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来所していただき、利用者や職員と一緒に お茶や食事をしながら話す機会を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームからの連絡・報告を密にする事により、良好な関係作りのきっかけにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知り合いの方等は時たま来所してくれるので、また来てもらえるよう、その都度、声掛けは行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性の悪い利用者もいるが、職員が介在する事により孤立しないよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	こちらから何かあれば遠慮なく連絡くださいと話し、退去後も協力関係を継続するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で意向を把握していくよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族や本人からアセスメントを取り、なるべく具体的な生活歴や趣味を把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画書にも反映させ、職員全員で取り組んでいくよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネが主導で家族から意向を確認し、職員同士で話しあって作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度、見直しを行い、新たらしく計画書を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違う発見があれば、その都度個人記録に記入し、ケアカンファレンス時に話しあうようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の要望を聞いて、可能な限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元や職員の知り合いの演芸サークルに声を掛け来所していただいたり、民生委員さんには運営推進会議のメンバーにもなっているため必要があれば協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状は行っていない。	○	必要があれば、機会を設けたい。他サービスを利用する為の支援をしていきたいと考えている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に今まで協働した事はない。(情報交換等は必要時、行っている)	○	協力体制は密にしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての利用者が家族の同意を得て当ホームの主治医に受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	特に専門医との関係を築く働きかけは行っていない。 (地域に専門医がない)	○	必要があれば家族・主治医に相談し、専門医を紹介してもらおう働きかけていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医のところの看護師が月に2度、健康管理に来所してくれている。 また非常勤ではあるが看護師が勤務してくれることになった。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会を必ず1日1回以上行い、環境の変化によるダメージを最小限にするよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医や非常勤看護師との連携により、早めの時期から今後についての方針を話し合う場を設けている。	○	看取りや重度化した場合における対応指針は整備済み。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医や非常勤看護師との連携により、早めの時期から今後についての方針を話し合う場を設けている。		看取りや重度化した場合における対応指針を整備済み。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に情報提供を行うことで本人のダメージを防ぐ事に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>言葉掛けには常に細心の注意を払うようにしている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>何が食べたいか、何をやりたいか、その都度希望を聞くようにしているが、なかなか意見が出ないので結果的に職員主導になりがちである。</p>	○	職員主導になりがちではあるが、意思確認や希望を聞きつづけたせいか、少しずつ希望や意見が出るようになってきた。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>1日の生活パターンがある程度形になっているので、全体的な動きになりやすいが、その中でもそれぞれの利用者が退屈しないようレクリエーションを取り入れて1日を楽しく過ごしてもらえるよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>散髪は近くの理容店にお願いしている。パーマや染髪は料金の事もあって、家族と相談しながら決めている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>芋の皮むきやにぼしの頭取りなど簡単な仕事は手伝っていただいている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>好みに応じた食事は提供するよう努力しているが、お酒やたばこは原則として提供できない。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的(1~2時間おきくらい)に声掛けを行い、トイレで排泄していただくよう誘導している。	○	夜間、利用者が眠っている時でも時間を見て声掛けを行いトイレ誘導を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	タイミングは考慮しているが、入浴日等はこちらに合わせていただいている。	○	現在、入浴日は決められてしまっているが、いつでも入浴出来るような準備を普段から心掛けていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的には、本人の気の赴くままに休息していただいたり、眠っていただいたりしているが、昼間からベッドで過ごすことのないよう、職員の声掛けによって、一定のリズムにそった生活が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴は活かしきれていないが、日々の生活の中で、それぞれの役割を職員が見出し、行っていただくことで張りのある生活を過ごせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則おこなっていない。(物取られ妄想や他人のものも自分のものとして取ってしまう人がいる為)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人員が少ないので、その日の希望にそって外出とはいかないが、定期的に利用者全員で外出する機会は作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	なかなか機会は作れないが、家族に協力していただき、連れて行ってもらったり、ホームでも定期的に外出する努力はしている。	○	最低月に1度くらいは外出の機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある際は電話を使う介助をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員側から声を掛け気軽に立ち寄れるよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は本人の安全確保のため、同意を得て拘束を行っている利用者がいるが全ての職員が正しく理解しているかは不明である。	○	関係ある研修会等が開かれる場合には積極的な参加を促していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害は理解しているつもりだが、徘徊をする利用者がいる為、現在は施錠せざるを得ない状態である。	○	以前はすべて開放していたので、問題がなくなれば施錠しないで、すべての門戸は開放していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレ利用時、夜間就寝時であっても確認の意味も込め、プライバシーに配慮しながら、さりげなく見守り、巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は置く場所を事務所内にし、刃物等も利用者の手の届かないところに置き、使用する際は職員が付き添い見守るようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急救命の講習に参加し、知識の習得に努めている。	○	事故対応マニュアルは整備済み。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が不安を抱えているが、消防署やグループホーム連絡協議会が主催する救急救命講習会などに参加し、知識と技術の習得に努めている。	○	定期的に続けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	常日頃から、近所の方々との交流を大事にし、お互い、協力関係を築く努力をしている。 また年2回、消防訓練を行っている。	○	消防訓練の際には近所の住民にも参加してもらい共同で避難訓練が出来るようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	特に必要と思われる利用者については十分に説明している。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変に気づいた際には管理者(管理者から主治医及び看護師)に連絡する体制としている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があった際には、薬局でその薬についての説明及び資料がもらえるので、職員間で情報を共有できるように努めている。	○	全職員が正しく内容を理解しているとは言えないので、今後、理解を徹底していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一定期間、排便のない利用者さんには、普段以上に歩行運動を行っていただいたり、冷水を飲んでいただくなど出来る限り自力排便が出来るよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず、全ての利用者の口腔ケアを行っている。 自分で出来る利用者には自分で行っていただいているが、職員が付き添い、しっかりケア出来ているか見届けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、朝・昼・夕の食事摂取量および水分摂取量を正確に記録し、バランスが崩れないよう配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、感染症に対する予防や対応に関する資料が公的機関から届くので、それを参考にしている。また、玄関及び洗面台には消毒液を配置し、その都度、消毒が出来るよう配慮している。	○	職員や利用者さんだけでなく、外部からの来訪者にもうがい、手洗いをお願いしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器等はすべて乾燥機に掛け熱消毒を行っている。食材も地元のスーパーで買ってきたものを使用し、賞味期限・消費期限に注意して調理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地入り口の門は開けておくと、玄関については徘徊する利用者さんがいるので施錠をしている。(以前はすべて開放していた)	○	出来れば全ての門戸は開放したいが、徘徊をする利用者さんが居る以上、全ての門戸の開放は難しい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に沿ったテーマの絵を利用者さんと一緒に描き、それをホールの壁に飾るなどして季節感を出すよう努力している。また、季節の花等も出来る限り飾るようにし、より季節感を出せるよう努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の大テーブル以外にベンチを設けて、一人になれる場所は作っているが、レクリエーション等を行う際には、一人になっている利用者さんにも参加していただくよう声掛けを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や日用品等は持参していただいたり、誕生日などの特別な日には撮った写真を壁に飾るなどの工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	昼間のうちは、毎日窓は開け、空気の循環に気を配っている。また夏季・冬季であっても過度な冷暖房はしないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造とし、また身体機能の低下を出来る限り防ぐ為、毎日、利用者さん全員でシルバー体操等を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員がその都度、声掛けを行い、生活の中での個人個人に合わせた役割(仕事の手伝い等)を見出し、行っていただく事で張りのある生活を過ごせるよう努力している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはウッドデッキがあり、毎日そこで外気浴をし、またデッキ周り及び庭には花壇があるので季節の花などを楽しむようにしている。 基本的に午前中は毎日デッキへ出てお昼まで歌や体操等のレクリエーションを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日、午前中の1時間から2時間は玄関先のウッドデッキにて全員外気浴（レクリエーションを含むお茶会のようなもの）を行っている。その中で、如何に利用者の生き活きとした表情を出す事が出来るか？という点に職員が主眼をおいて毎日のケアにあたっている。